

3人目の子どもが産まれました。と、というのが端的な私の自己紹介です。今は子育てと仕事の両方を楽しみながらやっています。

私は大学時代に植物生態学を専門として勉強しました。学生時代はほぼ毎日河畔林の調査を行っていました。林床が一面花で埋まる春から初夏にかけての景色に「今日ここで死んで良いかも」などと思ってしまうくらい北海道の身近な自然を好きになってしまいました。植物好きが高じて、娘の名前を決めるときも、「キタコブシ」からとって「こぶし」にしようと考えたくらいでした(妻に却下されました。)

現在の会社に入社してからは、主に河川計画と自然環境調査の両方に携わっています。河川計画は、当初、分からないことだらけでしたが、河川を専門とする当社の中で仕事をするうちに、今では河道計画、水理計算、治水経済調査まで何でもこなすようになりました。仕事を続ける中で自分にとって大きかったことは、自然環境からの視点と土木からの視点の両方が持てるようになったことです。土木の視点が開けたのは、先輩や上司に恵まれたこと、また、当社創設者の千田稔の著書に出会えたおかげと思っています。入社して10年近くになりますが、大変良い環境で仕事ができたと感じています。

今後については、自身の経験を踏まえ、子育て世代が働きやすい環境を築いていけたらと思っています。子育て世代が働きやすい環境になれば、女性も活躍できる職場になりますし、介護をしている世代も働きやすくなると思います。また、これから働く若者にとっても魅力のある職場に映るのでは無いかと思います。そして、土木業界全体の魅力向上の一助になればと思います。

大坂 哲也 (おおさか てつや)

●建設部門(建設環境)

勤務先

株式会社 北海道水工コンサル
タツ 技術部



→次号は、倉田亜以土さん(建設部門)

北海道札幌市で高校までを過ごし、本州の暑い夏に憧れて東北地方の大学へ進学しました。生きものが好きだった子供の頃とあまり変わらず、漠然と川や山で遊んでいましたが、遊び場にしていた川の砂防工事を眺めながら「自分の好きな自然環境を後世に残すためにはどうすればいいのだろう?」とふと考えたことがありました。声高に建設反対を訴えるのではなく、より環境に配慮した整備をする側に立ってみようと思い立ち、再び札幌に戻ってこの業界に飛び込みました。

平成18年の入社以来、上司・先輩の皆様にご迷惑をかけ通しの技術者生活ではありますが、自分に何ができるか、何をすべきかを常に考えながら、正確な現地調査やとりまとめ、発注者へのわかりやすい報告を目指し、包括的に業務に取り組んでいます。

環境・建設環境の分野の技術者は、魚類や鳥類、緑化など特に得意とする対象を持っている方が多いのですが、私は逆にジェネラリストとして広く興味を持つことを心がけています。発注者や市民の方に何を聞かれても答えられるよう、広く深い知識と技術を兼ね備えた技術者になることが目下の目標です。

河川・道路・砂防など、各事業で環境への配慮が一般的になりつつある現在にこそ、通り一遍等でなく、その場に応じた環境配慮をする必要性が高まっていると感じています。この道を志した最初の目標である「より良い環境を後世に」を忘れず、努力を続けようと思うこの頃です。

佐藤 英世 (さとう ひでよ)

●建設部門(建設環境)

勤務先

パブリックコンサルタント(株)
技術部 環境調査部門



→次号は、坂下 拓さん(建設部門)